

＝ 第 27 号 ＝

発行日:2009年11月1日

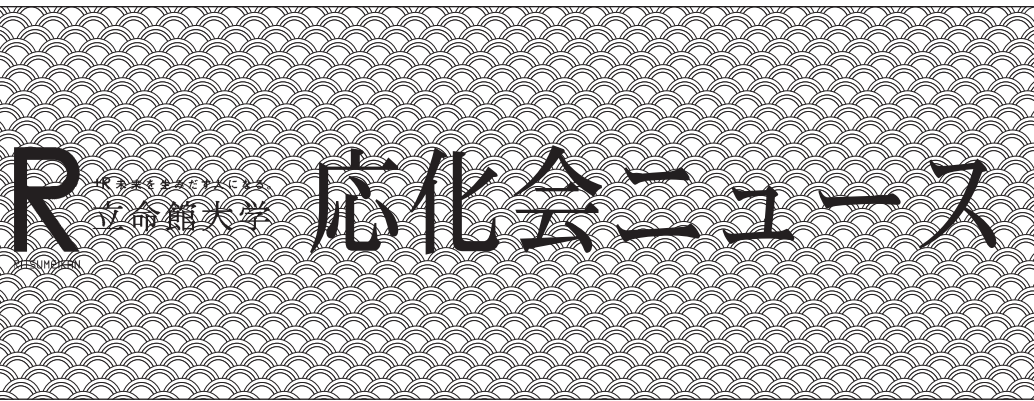
編集:立命館大学応化会事務局
編集責任者:金川 義孝

〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学生命科学部・
薬学部事務室内

TEL. 077-561-2658

FAX. 077-561-2659

e-mail:oukakai@st.ritsumei.ac.jp



生命科学部・薬学部

二年目を迎えて

生命科学部 生命科学系Ⅰ 前期学系長

小 堤 和 彦



物工学科では三原久明准教授、武田富美子准教授と福田青郎助教が着任されました。また、生命情報学科では三名、生命医科学科では二名、薬学部薬学科では五名の先生が新たに着任されました。

生命科学部は発足二年目ですが、卒業生の進路に関する検討が既に行われております。まず、進路の一つとして重要な大学院ですが、現在は理工系四学部の教員は大学院理工学研究科の中で教育・研究を行っております。この理工学研究科の改革に関する検討が総合理工学院で始まっており、生命科学部・薬学部では生命科学系の新研究科の設置を目標とし、学部教育充実のために連携している関西医科大学との共同大学院も視野に入っております。

また、卒研配属の方法についても昨年度より検討を重ねております。来年の今頃には、生命科学部第一期生である三回生の卒研配属の作業が進行していることと思いますが、その時期は就職活動開始の時期ともなります。現状では景気の動向は不透明で、就職状況がどのようになるのか予測できませんけれども、どのような状況であれ、

応化会会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。
新学部の完成と新研究科の設置が今後の具体的な使命ですが、最初にも述べました理学、工学、農学、情報学、医科学、薬学の融合を達成すべく邁進して参りますので、今後とも応化会の皆様方のご支援をお願い申し上げます。
最後に、応化会会員の皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。

応化会会員の皆様には、お元気で過ごしのことお喜び申し上げます。昨年度発足した生命科学部・薬学部も二年目を迎え、二学部の一体運営のもと、理学、工学、農学、情報学、医科学・薬学の融合という理念に向かい、教育・研究に努力しております。

まず、教員の異動についてご報告いたします。応用化学科では中村尚武先生が、生物工学科では小木隆先生が、生命医科学科では小

野文一郎先生が三月末に定年で退職されました。理工学部の化学科から出発し、理工学部のびわこくさつキャンパス移転では応用化学系(化学科と生物工学科の二学科)への拡充、更に昨年度の新学部設立という更なる発展にご尽力されてこられた三名の先生方には感謝の念に絶えません。先生方は四月より特任教授になられております。また、河口昭義先生も特任教授になられ、四名の先生方ともに講義・実験の担当をされ、生命科学部・薬学部の教育にご協力いただいております。

次に、四月より新たに着任された先生ですが、応用化学科では稲田康宏教授と伊藤達哉助教が、生



生命科学部・薬学部棟
サイエンスコア

定年退職にあたって

中村 尚武



二〇〇九年三月三十一日を以て立命館大学を定年退職いたしました。一九七一年四月一日から三八年間の勤務でした。そして四月一日付けで名誉教授の称号を受け、同時に特別任用教授に就任しました。したがって、現在もほぼ毎日大学に勤務しています。

さて、大学での仕事の一つは教育です。講義や実験の担当もしましたが、やはり卒研室のことが思い出されます。助手時代を含め四一六名の卒業生を出し、助教、教授時代には修士九二名、博士九名を出しました。これだけ多くの学生に接することができたことは教師冥利に尽きるどころです。

大学でのもう一つの仕事は研究です。直鎖長鎖状化合物に関する研究で学位を得てから、自身の研究分野の一つとして「液晶」を選び、高分子液晶、フェロセン含有液晶、シロキサン系オリゴマー液晶などを研究の対象としてきました。幸い多くの共同研究者に恵まれて、計画した内容のほとんどを論文にまとめることができ、ある種の達成感を感じています。

研究にはそれを遂行するために機器の調達や研究予算の獲得が必要になります。文部省が私学助成として最初に機器助成を企画した年、立命館大学は強力X線自動解析装置を申請しました。私は申請代表者に行方して文部省へ出向きました。その時ご一緒した先生が、京都駅で「中村さん、ズボンベルトを忘れた」と言われまして、私は「取りに帰る時間はありません、このまま参りましょう」と申し上げてそのまま上京しました。結果的にこの申請は採択され、

導入された装置は今も現役で稼働中です。その後何年か経ち、私自身がベルトを忘れて学校へ来た事がありました。丁度その日に、申請中だった大型研究費(NEDO)採択の通知があったのです。それ以来、私にとってベルトは研究と不可分の関係になりました。私は在職中三回も外国留学する機会を得ました。駆け出しのころ指導を受けたある先生が「これからは全ての情報を世界中に発信しなければいけない。論文はもちろん英語で書き、国内外の出来るだけ多くの研究者と議論すべきだ」と言われました。これを実践すべく、フランスへ二回、ベルギーへ一回留学し、公私にわたり貴重なヨーロッパ滞在を経験しました。去る一月三十日、「師に恵まれて六〇年」と題して定年退職記念最終講義を行いました。幼稚園である先生に出会って以来、定年に至るまでの六〇年間、多くの素晴らしい先生に恵まれ、感謝したいという趣旨で話しました。その時にも触れましたが、よく考えてみますと、私は多くの素晴らしい学生達にも恵まれました。今は応化会のメンバーとなった皆さんに、心から「有難う」と申し上げます。

最後に、応化会の益々のご発展を祈念しつつ、筆を置くこといたします。

中村尚武先生の

ご定年退職にあたって

花 崎 知 則
(平成元年卒)

二〇〇九年三月、三八年の長きにわたり、本学の発展に多大な貢献をされてこられた中村尚武先生がご定年の日を迎えられました。お元気でご定年を迎えられましたこと、心より喜び申し上げます。

一九七一年四月に本学理工学部助手に着任された先生は、主として機能性有機化合物の構造と物性の相関に関する研究を展開され、数多くの研究業績を残されました。特に液晶分野における数々の業績により、本年九月、日本液晶学会業績賞を受賞されました。

さて、中村先生は本学着任以来、生命科学部教授として定年を迎えられるまでの間、二二三名の学

中村先生は一九六六年に本学理工学部化学科を卒業の後、京都大学化学研究所を経て、山口大学理学部物理学科助手の職に就かれました。この間、先生は本学の渡辺明先生のもとで有機化学を学ばれるとともに、京都大学の浅井健次郎先生、小泉直一先生、山口大学の谷崎茂俊先生のもとで誘電率測定や単結晶X線構造解析など、種々の物理学的測定手法を学ばれました。こうした化学と物理学の両分野でのご経験が、後の先生の研究スタイルや独創的な研究の基礎となったのでありましょう。上げます。

士(助手時代を含めれば四一六名)、九二名の修士、そして九名の博士を世に送り出されました。『今日一日の努力が大切』、自らの行動で示された先生のこの教えを心に刻み、努力を続けている卒業生も多いことでしょう。また、先生は教育・研究にお忙しい中であって、数多くの学内役職に就かれ、本学の発展に大きく寄与されました。現在、先生は特任教授として生命科学部・薬学部の講義を担当されており、先生のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

定年退職にあたって

立木 隆



私は一九八八年四月に、当時の化学科に一つだけあった「生物化学」分野の研究室担当者として着任しました。研究室の看板は、定年までに「生物化学Ⅱ」を経て「応用微生物学」に変わりましたが、この二十一年間を大過なく勤めることができたのは、研究室の学生・院生の諸君、また応用化学系の先生方や応化会会員の皆様のご協力とご支援によるものです。気楽な「思い出話」を始める前に、まずは御礼を申し上げます。

生来怠け者の私は、立命館大学への着任が決まった時には、これからはのんびりできると思っていました。しかし、期待に反してこの

の大学は人使いが荒く、初めの二年間には手当付きの役職がすでに私に割当てられており、三年目には学科主任を、四年目は学部調査委員長を務め（させられ？）ることになりました。これらの時期が、次に述べます理工学部と化学科の变革期に重なっていたために、そのままこれに巻き込まれることになりました。

私の着任当時、化学科では工業化学課程の展開分野として「生物機能利用・半合成・生体模倣」を特徴とする「バイオテクノロジー（生物工学）」が考えられていました。一方、そのころ立案されていた第四次長期計画の中で、理工学部の「びわこ・くさつキャンパス」への移転、ならびに既存学科と共同して教育・研究や運営にあたる新学科設立の構想が示されました。化学科は、それまでの検討内容を発展させた「化学を基盤とする生物工学科」の設置と、その生物工学科と「材料・新素材の

分野を充実させる化学科」との二学科からなる「応用化学系」の設置とを提案しました。その結果、一九九四年四月の生物工学科設置までに、長い作業が続くことになりました。

新キャンパスでは、新学科であるということだけでなく、学系という運営体制も新しく、何もかもが手探りで始まりました。まさに「混沌」の状態でしたが、生物工学科の完成（一九九七年度）から、学科出身者が大学院博士課程前期課程を修了する年度（一九九九年度）までの間には次第に落ちつき、二〇〇〇年度実施の「外部評価」で一応の区切りがついたように思います。生物工学科の完成年度は、私の立命館大学での十年目になります。「走っている自転車は倒れない」というように比喩される立命館大学の中でも、この期間は大変にあわただしいものでした。しかし、一方では「面白い」時期であったようにも私には感じられます。

その後、皆様ご存知のように、二〇〇四年度には情報理工学部生命情報学科が設置され、二〇〇八年度には生命科学部・薬学部が設置されました。これらは応用化学系の大いなる飛躍と見ることで

きます。私が生命科学部に在籍したのは二〇〇八年度の一年間だけでしたが、これからは、好意的「やじ馬」として生命科学部・薬学部の発展に注目していこうと考えています。

立木隆先生の

ご定年退職にあたって

水野勝重
(平成五年卒)

立木先生、ご定年おめでとうございます。長年にわたり、懇切丁寧にご指導頂き有難うございました。私が立命館大学理工学部化学科に入学した一九八九年、キャンパスは京都の衣笠にありました。その頃から、私たち学生にとっては、立木先生は「いつも四角い顔に四角い眼鏡、への字口の偉丈夫」という印象でした。当時、今も変わらないと思います。当時、今も変わらないと思います。立木先生には非常に熱心にかつ厳しくご指導をいただきました。特に、時間には厳しく、私が卒業生の頃、衣笠キャンパス六号館四（五）階エレベーター前、朝八時には仁王立ちされていた立木先生の姿が、いまでも目に浮かびます。熱心にご指導いただいた事と同じ時に思い起こされるのが、先生ご自身の「激務」ぶりでした。朝八時には既に仕事を始められ、夜

十一時を過ぎても、まだ研究室で仕事をされているのが印象的でした。当時、電卓を叩きながら頭を掻きむしる先生のお姿を度々拝見いたしました。BKCへの移転と生物工学科設置に伴うお仕事のせいでしようか、移転後しばらくして、一時期は体調をご心配申し上げます。そのようなこともあったかのように記憶しております。しかしながら、その後もお変わりなく、ご活躍されているお姿を拝見いたしました。BKC移転と同時に生物工学科が、後に生命情報学科（当時は情報理工学部）、そして二〇〇八年には、生命科学部・薬学部が設置され、生物を取り扱う環境も大きく発展致しました。立木先生が築かれた礎なしには、これらの発展はなかったであろうと思います。

これまでのご指導に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、先生の益々のご健康とご活躍をお祈り致します。お疲れ様でした。

八時には既に仕事を始められ、夜

お疲れ様でした。

第二回中・四国支部懇親会を開催しました

中・四国支部長 宮川 金二郎

(昭和三十一年卒)



昨年十一月三十日(日)、午後一時半よりホテル・グランヴィア岡山において第二回

支部懇親会を開催いたしました。支部会員十二名、前会長木村碩志氏、現会長北尾舒彦氏ならびに旧教員鈴木啓三先生(物理学)、橋谷博先生(分析化学)、石井猛先生(環境化学)および現教員谷口吉弘、中村尚武、白石晴樹、花崎知則の諸先生のご出席をいただきました計二十一名。ささやかな会ではありましたが、楽しい有意義な時間を過ごすことができましたことをご報告いたします。

これを機会に、現在おかれております地方支部の悩みをお汲み取りいただき、お知恵を拝借したいと思っております。

中・四国支部はご存じのように中国五県(広島、岡山、山口、島根、鳥取)および四国四県(香川、徳島、愛媛、高知)に在住する会員によって構成されています。会員数は約五〇〇名ですが広島、岡山、山口、香川の瀬戸内四県に八割の方がおられ、最も会員数の多い広島県ですら百二十名程度です。いま仮に広島県の百二十名の方々に「JR広島駅に集合してください」とお願い

した場合、自宅から二時間以内に集合可能な方が何人おられるでしょうか。ましてや県を離れての会合では如何でしょうか。松江市から岡山まで三時間半、愛媛松山からでは四時間ばかりです。これが支部発展の律速なのです。

「関東支部は独立して運営している」とおっしゃる。東京都は独自にオリンピックの開催に手をあげました。だから中・四国九県も合同してオリンピック開催に手をあげろ、とも言われるのでしょうか。支部会員の名簿ですら滋賀県の草津本部にまで足を運んで閲覧しなければならぬ現状です。支部の抱える問題はあまた存在します。

「話し合えばいい」と言われますが政治家の言葉と同じです。その機会もなく一年が経過しました。支部会員の方々のご協力がなければ支部の発展はありません。

過疎県の集合体ではあります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



『岡山の温泉』・『世界の温泉』を出版して

応化会名誉会員 石井 猛

(昭和三十一年卒)



私は、昭和三十一年に理化学部化学科を卒業し、引き続きいて大学院の、電気化学・田中正三郎教授(当時理工学部長)の研究室を修了後、分析化学の神原富民教授(元函館高専校長)の助手に任命され、『ポロログラフ法』について約五年間研究を続けた。この時代には、博士課程がなく、そこで大阪府立大学工学部分析化学・武者聡一郎教授のもとで、助手として勤務しつつ、『交流ポロログラフ』による加硫ゴム製品並びに石油工業製品に関する分析化学的研究』で工学博士を取得した。当時、公害問題について世論が厳しく、各地に公害研究所が設立されていた。私は分析化学の技術をもって、兵庫県公害研究所に大気部門の主任研究員として迎えられ、環境庁主催の『光化学反応による有害因子生成に関する研究』に従事し、兵庫県内に

ついて調査・研究を行い、更に米国・韓国及び中国等の公害に関する調査をした。運よく丁度その時、全国の私立大学で最初の環境化学コースが岡山理科大学に発足し、環境化学の主任教授として赴任して、環境化学全般を教授した。その成果として、著書『環境化学ガイドブック』、『環境汚染物質の電気化学分析法』、『岡山県大百科辞典』等を出版した。その後、加計学園・岡山理科大学の水質管理センター所長並びに環境資源研究センター長を兼任し、活性汚泥法による微生物処理並びに水質分析、下水道、中水道、上水道、プランクトン等の環境に関する生態学について等、広範囲に研究した。その折、非常に繁殖力が強く水質浄化作用のあるホテイアオイの有効利用についても研究した。その成果を纏め内田老鶴圃より『ホテイアオイは地球を救う』を出版したところ、大変好評であった。これらの研究を海外で学会発表した。海外では、GEIENTOLOGY(長寿学・長生学即ち元気で、日本、世界中を旅行する学問)がある事を知り、その研究として、長寿出来る『水』の研究、長寿出来る『温泉』の研究、岡山県内を調査して『岡山の温泉』を出版し、更に世界を一周して『世界の温泉』を出版した(効用等については紙面の都合上、省略)。

応化会ニュースで、『温泉湯けむり談笑クラブ(仮称)・第一回未定』を拝見し、早速、木村碩志前会長に相談し、応化会の交流の場として温泉研究会をと提案しました。そして、今回のような、原稿を依頼される事になり、纏めて投稿させて頂いております。是非とも、応化会・温泉研究会を作ろうではありませんか! そして『永寿長楽』をしようでは、ありませんか! 紙面を借りて、御願ひ申し上げます。

漢方薬との上手な付き合い方

薬学部 薬学科 池谷 幸信



漢方医学は、古代中国医学が日本に伝わり、独自に発達した日本の伝統医療です。漢方という名称は、江戸時代に伝来した西洋医学と区別するために日本の伝統医療が漢方と名付けられたことに始まります。明治時代になり、欧米化を進める政府が、西洋医学を学んだ国家試験合格者に医師免許を与えるという医師免許制度を制定したことにより、漢方医学は一時、衰退します。多くの病氣治療に貢献してきた西洋医学ですが、機械的な検査は、人間のからだをトータルに診ることを妨げ、抗生物質をはじめとする薬剤の多用により、重大な副作用が生じる例も見ら

れ、アレルギー疾患や免疫不全などの体質的な疾患に対して西洋医学だけでは十分な治療効果が上げられないことも見えてきました。こうした時代背景もあり、「非科学的」などとされてきた伝統医学が見直されるようになりました。近年、効果的で質の高い医療を実践するため、根拠に基づいた医療 (Evidence Based Medicine) の考えが浸透してきており、漢方においても漢方EBMが唱えられ、近代的な研究方法による漢方薬の有効性のデータが蓄積されつつあります。さらに、漢方薬の顆粒剤や錠剤などのエキス製剤が開発されて、漢方薬が簡単に服用できるようになり、また健康保険の適用を受けたことで、広く普及し医療に浸透しつつあります。

しかし、漢方薬はその裏にある医学体系や使い方などが西洋薬とは異なっており、西洋薬と同じ使い方をしていると、十分にその恩恵を受けることができません。漢方による治療は、「証(しょう)」をつかむことから始まります。証は患者が訴える症状や診察によつて分かる病態、体格、個人的な特徴(性格など)を総合的に判断して得られる漢方独特の見立てです。病態を把握するための漢方独特の見立てをするためのものさしがあります。その第一が病態の性質をはかる「陰陽虚実(いんようきやうじつ)」です。陰陽は病気の時期を示すもので、陽証は闘病反応が積極的な時期をいいます。虚実は病氣になった時の闘病反応の強弱であり、闘病反応が強いものを実証といえます。第二が循環要素の異常をはかる「気血水(きけつすい)」です。気は生命活動を営むエネルギーで、血は血液やその代謝産物で、水は水分代謝全体をさし血液以外の体液成分をいいます。第三が病態のステージをはかる「六病位(ろくびょうい)」です。急性熱性病の場合、なんの治療も行わなければ、病氣は太陽病(たいようびょう) ↓陽明病(ようめいびょう) ↓少陽病(しょうようびょう) ↓太陰病(たいいんびょう) ↓厥陰病(けつちんびょう)の順に推移していくと考えられています。こうして、患者の証が決定す

ると処方が決まります。例えば、風邪にかかった際の葛根湯証(かっこんとうしょう)、桂枝湯証(けいしとうしょう)などです。風邪に使う漢方薬にもいろいろあります。風邪のひきはじめ(太陽病期)で、悪寒悪風(おかんおふう)、発熱、首から肩にかけてこりがあり、汗が出ていない人(実証)には葛根湯が用いられますが、汗が出る人(虚証)には桂枝湯を用います。風邪の初期で、クシャミや鼻水が出て、水っぽい痰(たん)が出る場合には小青竜湯(しょうせいりゅうとう)が用いられます。病邪が体表から中に入り(陽明期)、食欲不振などの消化器症状が出てきた時は、小柴胡湯(しょうさいことう)(実証)や柴胡桂枝湯(さいこけいしとう)(中間証)が用いられます。老いても漢方で元気にというところで、老化を漢方的に見てみますと、老化は五臓(肝(かん)・心(しん)・脾(ひ)・肺(はい)・腎(じん))の中で、腎が関与していると考えられています。加齢に伴い腎が衰えると腎陰虚(じんいんきよ) (血や水などの物質的な消耗状態)で、エンジンに例えるとラジエターの水が減りオーバーヒートの状態)や腎陽虚(じんようきよ) (腎の活動エネルギーが不足した状態)にな

ります。腎陰虚になると、のどが乾いたり歯がグラグラしたり髪が抜けるなどの症状が現れます。腎陰虚の人には六味丸(ろくみがん)が用いられます。一方、腎陽虚になると、腰が痛んだり、だるくなったり、夜間尿、インポテンツ、不感症になるなどの症状が現れます。腎陽虚の人には八味地黄丸(はちみじおうがん)や牛車腎気丸(ごしやじんきがん)が用いられます。また、高齢になると、認知症が心配ですが、認知症に伴い、妄想・不眠・徘徊・攻撃行動といった周辺症状が現れる場合があり、介護する人にとっては大きな問題となっています。抑肝散(よくかんさん)は、この認知症に伴う周辺症状を改善するというところで注目されています。漢方薬は一人一人の体格や体質、症状、病気の種類や時期などに合わせて薬を選び分けています。医師や薬剤師に適切な漢方薬を選んでもらうために、自分からも症状や自分の体質などを詳しく説明するようにし、上手に漢方薬を利用し、いつまでもお元気に暮らしていただければと思います。(本稿は、二〇〇九年二月十五日に応化会第三回健康セミナーで講演をさせていただいた内容の一部です。)

腰痛との出会い

岸 要

(昭和二十五年卒)



九九年四月初旬、かたくりの花を求めて、カメラを肩に福井県今庄の山地を捜し歩いていたときのことでした。急に左腰から臀、腿の筋肉に激痛を感じ歩けなくなり、少し休むと痛みは治まり、また歩き始めましたがしばらく歩くとまた激痛、こんなことを繰り返しながらやっとの思いで帰宅しました。後から思えば、これが腰痛との最初の出会いです。それから暫くの間、腰回りの激痛に悩まされ、近所の整形外科医院や整骨医院に通いましたがあまり回復の兆しはなく、腰痛との辛く長い付き合いが始まりました。

同じ頃、腰痛だった級友の田邊巖さんから「大津市民病院の脳神経外科で新進気鋭の名医木原俊孝先生に手術して戴き、短期間で回復してゴルフもできるようになった。岸さんも診てもらわれたら如何ですか。」と勧められ、木原先生

のお世話を少々しておりました。生憎、木原先生の診察日が火曜日に限られていましたので、教会の信仰入門講座を休んで大津市民病院に行く決心もつかないまま、徒に年月を過ごしていました。

それから八年余りも過ぎた〇七年夏頃から妻が右腕の激痛を訴えるようになり、近所の整形外科医院に参りましたが原因が判らず、偶然大津市民病院を紹介されました。

毎朝、足腰の運動のため山科びわこ疎水を歩いています。同様に歩いている仲間、京都二中同期の友人がいます。彼も足腰を患い、地元の病院に通いながらリハビリ目的で疎水を歩き始めたのでした。今年正月以来姿を見せなくなり、断念してまで勤めていた、応化会名簿管理委員長のお役目は、西暦二〇〇〇年の記念すべき節目に二〇〇〇年版を、また印刷版としては最後の名簿二〇〇三年版を発行して無事に終えることができました。カトリック教会信仰入門講座の聴講では多くの人々と出会い、信頼する知友に恵まれたことを感謝しています。

の大津市民病院公開市民講座の詳しい資料(脊椎疾患は万病のもと)ピン・ボケ・ネタキリ(PBN)からピン・ピン・コロリ(PPK)「へ」を戴きました。ユニークな含蓄のある人生観から各症状の説明、対処療法が詳しく纏められていました。

当時、私は応化会の名簿管理委員長を担当しておりましたけれども、九八年には発行予定の名簿第五号が、パソコン管理の導入や郵便番号への変換作業の輻輳のため大幅に遅れておりました。また所属しているカトリック教会で火曜日に信仰入門講座を聴講しながら、担当神父様のご指示で聴講者

大津市民病院なら、ぜひ木原先生に診察をと早速申し込み月中旬の初診の日に、例の「脊椎疾患は万病のもと……」のコピーを持参いたしましたら木原先生は大変懐かしそうにご覧になりました。妻の右腕の激痛の原因は頸椎狭窄症(けいついきょうさくしょう)と診断されて、十一月初旬に入院手術、約二週間で退院いたしました。これを機縁に、私も診察を受けました。「腰も悪いが主な原因は頸椎狭窄症」との診断で翌〇八年四月初旬に入院手術、二週間で退院、順調に回復しました。今も足腰に力が入らない、走りや跳躍ができない、重い物が持てないなど多少の不自由はありますが、激しい痛

で以来自宅療養中です。手術後も痛みが激しくて歩行も不自由で、痛み止めのブロック注射のために毎週一回通院しているとのこと(五月現在の状況) 一口に腰痛と言っても、その原因も症状も人によって千差万別で、一概に比較して考えることはできませんが、腰痛の手術は世間ではまだまだリスクの大きい医療のようです。

新任の先生から一言

伊藤達哉先生



本年四月より生命科学部応用化学科に助教としてお世話になっております。専門は有機化学で、主に光照射を用いた有機反応の開発について研究しております。今年三月に博士課程を修了したばかりの若輩者で至らぬ点も多いと思いますが、教育と研究に持てる力を尽くしたいと考えております。応化会の皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

略歴

二〇〇六年四月 福井大学大学院工学
研究科生物応用化学専攻博士前期
課程修了。
二〇〇九年三月 福井大学大学院工学
研究科物質工学専攻博士後期課程
修了博士(工学)。

二〇〇九年四月 立命館大学生命科学
部応用化学科助教。

稲田康宏先生



本年四月より生命科学部応用化学科の教授として着任し、無機触媒化学研究室を担当しております。専門の研究対象は無機触媒化合物で、反応解析に基づく機能性触媒の創製を目指しています。学生と一緒に「理解する」ことをモットーに、共に自然科学研究の醍醐味を味わいたいと思っております。応化会の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

略歴

一九九二年三月 名古屋大学大学院
理学研究科博士課程前期課程修了。
一九九二年四月 名古屋大学理学部
助手。
一九九八年三月 博士(理学)。

一九九八年四月 名古屋大学物質科
学国際研究センター助手。
二〇〇〇年十月 インズブルック大
学博士研究員(二年間)。
二〇〇四年十一月 高エネルギー加
速器研究機構物質構造科学研究所
助教、後に准教授。
二〇〇九年四月 本学着任。

武田富美子先生



四月より生物工学科准教授として赴任してまいりました。出身は京都市、京都府立高等学校で教師(主として化学担当)ののち、琉球大学で「家庭内のダニとアレルギーの関係」を調査研究。大学非常勤講師を経験するなかで、ドラマ教育に出会いました。本学では、教職担当として、未来の教員養成に携わっています。変わり種ですが、よろしく願います。

略歴

一九七六年 京都工芸繊維大学卒業。
一九七七年から十五年間高等学校教
諭(理科)、のち沖縄へ。
一九九五年 琉球大学大学院保健学
研究科修了。
二〇〇四年 琉球大学大学院医学研
究科博士課程修了、博士(医学)。
琉球大学、沖縄国際大学で非常勤
講師。NPO法人珊瑚舎スコール
講師(二年間)。

福田青郎先生



本年四月より生命科学部生物工学科の助教として着任いたしました。私はこれまで極限環境微生物を題材に代謝やストレス応答の研究を行ってまいりました。立命館大学では極限環境微生物に加え、微生物の工業的利用に関して広く研究を行いたいと考えております。未熟者ではありますが、皆

さまのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

略歴

二〇〇五年十月 京都大学大学院工学
研究科博士後期課程単位認定退学
同年十一月 博士(工学) 学位取得
二〇〇五年十一月 関西学院大学理
工学研究科ナノバイオ研究開発セ
ンター 博士研究員。
二〇〇八年十月 立命館大学総合理
工学研究機構ポストドクトラル
フェロー。
二〇〇九年四月 立命館大学生命科
学部生物工学科 助教。

生物学、酵素化学です。特に、含セレン・含硫黄生体分子や鉄硫黄クラスター等の金属含有補因子の生合成・代謝に関する研究を行っています。生体機能をモノ作りや環境浄化に活かす研究も行っています。何卒宜しくお願いいたします。

略歴

一九九三年 京都府立大学農学部卒業。
一九九五年 京都大学大学院農学研
究科修士課程修了。
一九九八年 同博士後期課程単位取
得退学。
一九九九年 博士(農学) 取得。
同年 京都大学化学研究所非常勤研
究員。
二〇〇〇年 同助手。
二〇〇七年 同助教。
二〇〇九年 本学着任。

力する所存です。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



略歴

一九九九年三月 東京大学大学院総合
文化研究科生命環境系博士課程修
了 博士(学術)。米国インディア
ナ大学博士研究員、大阪大学大学院
理学研究科研究員、名古屋大学大
院理学研究科特任講師などを経て、
二〇〇九年四月 本学着任。



略歴

一九八五年 富山医科薬科大学医
学部卒業。福井医科大学内科学
第三講座研修医、関連病院を経て、
一九八八〜一九九二年 福井医科大
学大学院博士課程(博士(医学))。
一九九二年 福井医科大学学生化学第
二講座助手。
二〇〇〇年 米国国立衛生研究所研
究員。
二〇〇〇年 独立行政法人国立病院
機構さいがた病院臨床研究部生化学
研究室室長(専任、内科医長(兼任))。
二〇〇九年四月 本学に着任。

三原久明 先生



本年四月より生命科学部生物工学科の准
教授として、応用分子微生物学研究室を担
当しております。専門は、生化学、応用微

てらうち かずき
寺内一姫 先生

本年四月より生命科学部生命情報学科に
准教授として着任いたしました。専門は、
植物生理学、分子生物学、生化学で、シア
ノバクテリアを用いて生物時計や光情報伝
達の研究をしてきました。生命科学部の発
展に貢献できるように、研究・教育に一層努

稲津哲也 先生

本年四月より薬学部教授として赴任致
しました。専門は、細胞内情報伝達とその
異常、臨床分子遺伝学です。今後生命科学
部・薬学部における教育に全力を尽くすと
ともに、立命館大らしい研究ができればと
考えております。皆様のご指導、ご鞭撻の
ほどよろしくお願い申し上げます。

小池千恵子 先生

本年四月より薬学部准教授として着任
致しました。専門は神経科学・発生生物
学で、神経発生システム研究室を主宰して
おります。今まで培ってきた知識や考え

方を新設学部の薬学教育や立命館大学の研究の発展に役立てることができたらと考えています。未熟な点多くお世話になることも多いかと存じますがご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



略歴

一九九〇年 静岡県立静岡薬科大学卒業 薬剤師免許取得。
一九九五年 静岡県立大学大学院博士後期課程修了 博士(薬学)。ハーバード大学医学系大学院、テキサス大学サウスウェスタンメデイカルセンター、財団法人大阪バイオサイエンス研究所研究員を経て、二〇〇九年本学に着任。

細胞分化機構について生化学分子生物学的研究を行ってきました。いままでの経験を生かして教育と研究に力を注いで行く所存です。薬学部の発展に努力していきますので、よろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



略歴

一九八三年三月 防衛医科大学校卒業。
一九九〇年四月 大阪大学医学部基礎系医員。
一九九一年九月 スクリプス研究所研究員。
一九九四年八月 大阪大学蛋白質研究所助手。
二〇〇二年六月 金沢大学自然科学研究科助教授。
二〇〇九年四月 本学着任。

服部尚樹先生

本年四月より薬学部薬学科教授として着任致しました。専門は内分泌学で、これまで臨床医学と薬理学にほぼ同年数従事して参りました。現在は免疫・神経・内分泌相互作用の研究に力を注いでおります。今後は本学薬学部での教育と研究に全力で取り組み、その発展に精一杯努力する所存ですので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



略歴

一九八三年三月 京都大学医学部卒業 医師免許取得。
一九八三年六月 京都大学医学部付属病院内科研修医。
一九八四年六月 北野病院内科医員。
一九八六年四月 京都大学大学院医学研究科内科系博士課程入学。
一九九〇年三月 同修了 医学博士 内科専門医。
一九九〇年四月 神戸市立中央市民病院内分泌糖尿病内科副医長。

一九九六年四月 関西医科大学薬理学講座助手。
一九九七年四月 同講師。
二〇〇三年五月 同准教授。

他に、天野晃教授(生命情報学、組織機能解析学)、祐伯敦史(ゆうはくあつし)准教授(生命情報学)、井上英樹助教(生命医科学科、病態細胞生物学)、原貴史助教(生命医科学科、医学)、山本洋平助教(薬学科、生物有機化学)の各先生が着任されました。

事務局だより

企画運営委員会では、現在活動中の『ゴルフ懇親会』『ハイキング』『釣り天狗クラブ』に加え、新たに『温泉研究会(仮称)』が発足することになりました。応化会は、開催案内の発送費用のみ負担し、活動自体への補助は行っておりませんが、ご興味のある方は、是非一度ご参加下さい。

また、別紙チラシでご案内しております、第四回健康セミナーへのご参加もお待ちしております。毎回参加者の方に好評を博しており、今回もまた、日頃皆様に興味をお持ちのテーマでお話していただきます。

応化会は、皆様からの年会費で運営しております。今年度の年会費納入にご協力下さい。

谷浦秀夫先生

本年四月より薬学部教授として着任致しました。これまで主に培養細胞を用いて、



「釣り天狗クラブ、ついに誕生！」

目片 秀 明 (平成四年卒)

私は立木隆教授の化学科生物化学研究室(応用微生物研究室)を卒業した後、縁あって一九九八年より応化会の常任幹事を務めさせていただいております。

これまでに応化会の幹事会や総会に参加して感じたことは、応化会の会合に二十代、三十代の若手の卒業生の参加が非常に少ないということでした。その現状を憂い、何かできないかという思いを以前の応化会ニュース「応化会に若い血を！」に掲載させていただきました。そして、ついに念願の応化会の活動の一環として若い人にも人気のある釣りクラブを発足させることができました。去る二〇〇九年四月十二日(日)に釣り天狗クラブの第一回イベントを開催しました。その時の報告と今後の活動についてご案内させていただきます。

当日は春の陽気で絶好の釣り日和となりました。高槻市摂津峡の芥川マス釣り場にて、先生から釣り好きの学生まで総勢十名でニジマス釣りとバーベキューを楽しみました。結構皆さん入れ食い状態で、一人あたり十四くらいは釣り上げていました。なかには目測で四十cm近くありそうなニジマスを釣り上げた人もいました。その後、その場で魚をさばき、バーベキューにして食べました。釣りのたて



魚はなんとも言えない美味しさでした。また、アルコールも入り、会話が弾み非常に楽しいひと時でした。

今後、釣り天狗クラブでは、年に一回程の釣りとバーベキューができるイベントを開催していきたいと考えています。例えば、川の魚で特に美味しいアマゴやイワナ釣りや、海でキス、タイ、タチウオ釣り、また夏には船でイカ釣りなどをしてから、旬の魚をその場でバーベキューにして食するイベントを計画したいと考えています。これからも応化会を通じて異業種間交流を活発に行い、人の輪を広げていきたいと思っております。是非皆様も一緒にいかがですか。

「立命スポーツを応援しよう」

白石 晴 樹 (昭和四十七年卒)

応化会ニュースであまり取り扱われてこなかった話題を、今回はご紹介いたします。

本学学生は多くの分野で活躍をしていますが、とりわけ最近十年間のスポーツにおける活動にはめざましいものがあります。そこで、二〇〇八年度立命館大学の学生がスポーツイベントで残した素晴らしい結果の一部を下の方に示しました。全国レベルの大会で優勝したものをだけあげましたが、他にも世界大会へ参加した学生や、スポーツ以外にも文芸部門での日本チャンピオンになった学生など、全てをご紹介することは紙面の関係で不可能な状況です。詳細と最新情報は、立命館大学のホームページ(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/st/student/info/>)をご覧ください。

お近くで

本学学生の参加するイベントが開催されるときは、是非会員の皆様への応援をよろしくお願いたします。



第6回全日本大学女子選抜駅伝優勝

二〇〇八年度立命館大学のアスリート達

一、アメリカンフットボール部

パナソニック電工杯

第63回毎日甲子園ボール 優勝

アメリカンフットボール日本選手権

第62回ライスボール 優勝

二、女子陸上競技部

第26回全日本大学女子駅伝競走大会

優勝 (三連覇)

第6回全日本大学女子選抜駅伝

優勝 (六連覇)

三、ホッケー部(男子)

第82回全日本男子ホッケー選手権 優勝

四、カヌー部

第44回全日本学生カヌー選手権大会

男子個人・総合優勝

五、弓道部

第20回全日本学生弓道選抜大会

男子総合優勝

六、ヨット部

第17回全日本学生女子ヨット選手権大会

総合優勝

七、ボート部

第86回全日本選手権大会

男子種目別優勝

八、ゴルフ部

第31回女子大学ゴルフ対抗戦 優勝

個人競技の成績は省略しました。

企画運営委員会報告

委員長 篠原 長政

(昭和四十三年卒)

会員の親睦を目的とした「ゴルフ・懇親会」および「ハイキング」に加え、新しく「釣り天狗クラブ」がスタートしました。立ち上げには目片秀明様にお世話になりました。

更には、温泉めぐりと温泉に関する勉強会「温泉研究会(仮称)」が次年度に立ち上がる予定です。木村碩志様ならびに石井猛様(応化会ニューズ本号参照)にお世話いただきます。

「ゴルフ・懇親会」等に対して応化会からの補助金はありませんが、同封の葉書で、新規にご登録していただいた方には、事務局よりご案内致します。

第三回健康セミナーの開催

平成二十一年二月十五日(日)



京都タワーホテルにおいて「漢方薬との上手な付き合い方」と題して、立命館大学薬学部(生薬学研究室)教授の池谷幸信先生にご講演いただきました。漢方薬は副作用が少なく、自然治癒力を高めると耳にします。

ご講演では、漢方薬はこの国の

薬? これは日本の伝統薬で、韓薬、中薬、漢方薬(日本)と言ひ、従って中国「漢方」という言葉は間違った使い方だそうです。

漢方薬の基礎知識、漢方薬の上手な飲み方(食事の三十分前または食間に服用など)や二日酔い、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、インフルエンザ、大手術後などの具体的な漢方処方について教えていただきました。ありがとうございました。(本号6ページ参照)

第二十一回 ゴルフ・懇親会

平成二十年十月五日(日)

三上正勝様・西村定様にお世話いただき、竜王ゴルフコースにおいて開催しました。競技方法はダブルペリアにて行ひ、樋田克史様が優勝されました。おめでとうございます。

第十八回 応化会ハイキング

平成二十年十二月六日(土)

川口士郎様のコース選定により「天王山・ビール工場見学」ハイキングを開催しました。JR山崎駅に集合。宝寺↓天王山↓浄土谷↓柳谷観音↓奥海印寺↓長岡天満宮↓循環シャトルバス↓サントリー京都ビール工場(ビール試飲)のコース。その後は、例によって、安くて美味しい店で懇親会。

第二十二回 ゴルフ・懇親会

平成二十一年三月十三日(金)

三上正勝様・西村定様にお世話いただいた宇治カントリークラブにおいて、東正弘様が優勝されました。おめでとうございます。

今回は、十月十四日(水)に茨木

高原カントリークラブにおいて開催されます。

第十九回 応化会ハイキング

平成二十一年五月二十四日(日)

川口士郎様に幹事をお願いし、「箕作山・太郎坊山」ハイキングを開催しました。JR琵琶湖線 近江八幡駅に集合。市辺駅↓舟岡山↓岩戸山

登山口↓十三仏↓箕作山↓太郎坊宮のコース。十一月以降に実施される予定です。

第一回 釣り天狗クラブ

平成二十一年四月十二日(日)

目片秀明様に準備いただき、第一回のイベントを開催しました。

芥川漁業共同組合受付事務所に集合。海釣りが得意な女性の方や初心者も参加。釣り具を借り、手ほどきを受けると、

初心者でも二時間ほどで十匹以上を釣り上げ、後はバーベキュー・懇親会。初級者の方も是非ご参加下さい。



応化会役員名簿変更箇所

(敬称略)

追加

名誉会員

小野文一郎、立木 隆
中村 尚武

年度幹事

(新制大学一部化学科)

27年卒 松岡 彦次

逝去

年度幹事

(新制大学一部化学科)

27年卒 富田 耕一

辞退

年度幹事

(専門学校一部工科)

20年卒 野村祐三郎

編集後記

今年、日本も世界不況の直撃を被り、未曾有の経済危機に陥りました。八月の衆議院総選挙では、民主党の圧勝、自民党完敗により、地殻変動が起き、さらに新型インフルエンザ流行拡大が懸念されています。

大学は生命科学部、薬学部へ十五名の先生が着任され、今後の展開が図られます。

応化会は昨年、中国・四国支部懇親会を開催し、企画行事に新たに釣り天狗クラブが発足し、マス釣り大会を実施しました。会員の皆様も各々の行事に積極的に参加して、一段と絆を深めていただきたいと思います。(金川)

物故者

平成20年9月1日から平成21年8月31日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

宮本	越智	山内	松岡	城家	若松	林	宮本	田中	藤原	田中	齊藤	川崎	田中	高倉	篠田	田中	山田	久村	村上	御旅屋	江原	浜田	富田	古市	森本	河原	丹原	金本	米奥	伊牟田	水野	日野	富永	堤	岡井	筒井	加藤	市原	竹田
伸滋	利幸	公司	憲治	良彰	一弘	貞三	昌昭	良一	睦三	敏博	公治	利公	哲雄	聖司	史郎	正隆	敬祐	博己	信喜	幸夫	昭雄	茂	巧	耕一	敏雄	和三	弘道	善登	正男	栄夫	謙介	惟好	平八郎	英典	進	公男	不二		
(昭和62年卒)	(昭和57年卒)	(昭和56年卒)	(昭和51年卒)	(昭和48年卒)	(昭和45年卒)	(昭和43年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和39年卒)	(昭和39年卒)	(昭和35年卒)	(昭和35年卒)	(昭和34年卒)	(昭和33年卒)	(昭和33年卒)	(昭和32年卒)	(昭和31年卒)	(昭和31年卒)	(昭和30年卒)	(昭和29年卒)	(昭和28年卒)	(昭和28年卒)	(昭和27年卒)	(昭和26年卒)	(昭和25年卒)	(昭和23年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和22年卒)	(昭和20年卒)	(昭和20年卒)	(昭和20年卒)	(昭和18年卒)		

応化会 2008年度(平成20年度) 事業報告

- I. 諸事業
- 1) 2008年3月卒業生名簿作成 2008年5月～
 - 2) 在校生ソフトボール大会 2008年11月
 - 3) 応化会ニュース(第26号)発行 2008年11月
 - 4) 全会員への通信、会費請求 2008年11月
 - 5) 卒業記念パーティー 2009年3月20日
 - 6) ゴルフ懇親会の開催
 - ・第21回 2008年10月5日
 - ・第22回 2009年3月13日
 - 7) 応化会ハイキングの開催
 - ・第17回 2008年6月1日
 - ・第18回 2008年12月6日
 - 8) 健康セミナー
 - ・第3回 2009年2月15日
- II. 諸会議
- 1) 幹事会
 - ・第1回 2008年6月22日
 - ・第2回 2009年2月15日
 - 2) 企画運営委員会
 - ・第1回 2007年9月8日
 - ・第2回 2008年7月19日
 - ・第3回 2009年2月15日
 - 3) 応化会ニュース編集委員会
 - ・第1回 2008年7月5日
 - ・第2回 2008年9月6日
- III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)
- 1) 中国・四国支部懇親会 2008年11月30日

2008年度(平成20年度) 応化会決算

(単位:円)		
一般会計		
(収入の部)	予算額	執行額
前年度繰越金	3,283,917	3,283,917
会費(一般)	2,000,000	1,702,000
会費(学生)	2,180,000	2,090,000
寄付金	250,000	356,900
雑収入	5,000	2,401
合計	7,718,917	7,435,218
(支出の部)	予算額	執行額
総会開催費	0	0
事業等補助金	200,000	54,275
地域別活動推進費	700,000	248,970
会議費	200,000	71,243
印刷費	400,000	376,882
郵送費	800,000	691,587
人件費	500,000	499,500
事務局費	50,000	26,907
雑費	100,000	4,000
拠出金(特別会計へ)	0	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	100,000
在学生生活動援助費	200,000	200,000
振込手数料	100,000	69,975
予備費	3,193,945	30,000
合計	7,343,945	3,373,339
次年度繰越金		4,061,879
特別会計		
(収入の部)	予算額	執行額
前年度繰越金	2,732,014	2,732,014
拠出金	1,000,000	1,000,000
雑収入	1,000	7
合計	3,733,014	3,732,021
(支出の部)	予算額	執行額
人件費	500,000	237,100
事務局費	200,000	247,135
予備費	2,516,356	0
合計	3,216,356	484,235
次年度繰越金		3,247,786

応化会 2009年度(平成21年度) 事業計画

- I. 諸事業
- 1) 2009年3月卒業生名簿作成 2009年5月～
 - 2) 在校生ソフトボール大会 2009年11月
 - 3) 応化会ニュース(第27号)発行 2009年11月
 - 4) 全会員への通信、会費請求 2009年11月
 - 5) 卒業記念パーティー 2010年3月22日
 - 6) ゴルフ懇親会の開催
 - ・第23回 2009年10月14日
 - ・第24回 未定
 - 7) 応化会ハイキングの開催
 - ・第19回 2009年5月24日
 - ・第20回 未定
 - 8) 釣り天狗クラブ
 - ・第1回 2009年4月12日
 - 9) 温泉研究会(仮称)
 - ・第1回 未定
 - 10) 健康セミナー
 - ・第4回 未定
- II. 諸会議
- 1) 幹事会
 - ・第1回 2009年6月21日
 - ・第2回 未定
 - 2) 企画運営委員会
 - ・第1回 2009年9月26日
 - ・第2回 未定
 - 3) 応化会ニュース編集委員会
 - ・第1回 2009年6月21日
 - ・第2回 2009年9月5日
 - 4) 地域別活動推進委員会 未定
- III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)
- 未定

2009年度(平成21年度) 応化会予算

(単位:円)	
一般会計	
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	4,061,879
会費(一般)	1,700,000
会費(学生)	1,860,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
合計	7,876,879
(支出の部)	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	700,000
会議費	200,000
印刷費	400,000
郵送費	800,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	3,526,879
合計	7,876,879
特別会計	
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	3,247,786
拠出金	1,000,000
雑収入	1,000
合計	4,248,786
(支出の部)	予算額
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	3,548,786
合計	4,248,786